



伊達市議会議長

高橋 一由

TAKAHASHI KAZUYOSHI



2021
年頭のごあいさつ



伊達市長

須田 博行

SUDA HIROYUKI

市民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年は市政運営に對しまして、温かいご支援ご協力をいただきましたことに心から御礼を申し上げます。

一昨年の台風19号で伊達市は甚大な被害を受け、そして昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により市民生活に大きな影響が出ております。市民が安全で安心した生活を送れる環境を創っていくことが急務となっております。加えて、伊達市が将

来に向け持続的に発展するためには、若者から高齢者まで全ての市民が「住んで良かった」と思えるまちにしていかなければなりません。

さて、これからの社会は、真ん中から分散へと変わっていくと考えています。これまでは都会などに人が集中することで、効率的に仕事を進めていきました。しかしコロナ禍を経験して分かつたことは、「集中することの危険性」と「分散することの安心感」ではないでしょうか。毎日満員電車で揺られ会社に通う、それをリスクだと感じている人は多いと思います。そういう人

ルに勝利いたしましょう。さて、伊達市は平成18年1月1日五町で合併し、16年目を迎えました。その間、合併時最大の懸案でありました旧町各小学校の改築が進み、合併の成果を挙げることができました。

皆さま、新年おめでとうございます。

令和3年の輝かしい新春をこ壮健にて迎えられましたこと、心よりお慶びを申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が流行し、当市も感染者が発生しました。感染された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く日常生活に戻るため、議会では新型コロナウイルス感染症対策協議会を設置し、対応しています。新しい生活様式を可能な限り遵守し、信頼し、自主的な規律性を高め、自分と愛する人の命を守るために、動揺せず、新型コロナウイルス

活の支援に向け、県内第一位の高額な水道料金を令和3年度より減額することを求め、昨年12月議会最終日、全会一致で決議いたしました。議会では少しでも低廉となるように努力します。

伊達市議会は伊達市議会基本条例の下、各種事業を通して市民要望に応えるため、創意と工夫と努力を怠ることなく、市民のための議会、市民の大切な血税の用途を決める、最高議決機関にふさわしい議会運営を目指し、市民から頼りになる議会となるよう、議員一丸で進めてまいりますことを、お誓い申し上げます。年頭の挨拶といたします。

また、東北中央自動車道相馬福島道路の開通、大規模商業施設の出店、土地区画整理事業による宅地開発など、交流人口や物流の活性化、定住者の増加が見込まれ、本市の経済や地域振興に資するものと大いに期待しております。

このような中、議会はコロナ禍であっても持続可能な市民生

たちを受け入れられるのはどうか、地方だと思っています。テレワークもでき、高速交通網も進んでいる地方は、これからの時代をけん引していくと考えています。

安全で安心な地方に住んでみたい、自分に合った仕事をしたい、農業をやってみたい、そういった人たちを受け入れられる伊達市にしていきたいと考えています。

これらを実現するためには「働く場所を創る」、「子育てしやすいまちにする」、「皆が健康で暮らせるまちにする」、この3つの施策をしっかりと進めていくことだと考えています。市民の皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。